# 日本植物病理学会ニュース　第105号

（2024年2月）


【追悼　中島　隆博士】

本学会理事，中島 隆氏は，令和5年9月19日にご逝去されました．ここに謹んで心から哀悼の意を表します．

中島氏は1985年に北海道大学大学院を修了後農林水産省に採用されました．東北農業試験場にて約14年間，ムギ，ダイズ，イネの病害研究に従事され，1998年には「コムギの紅色雪腐病抵抗性に関する研究」で博士号を取得されました．その後，農林水産省への出向を経て，九州沖縄農業研究センターでは赤かび病研究チーム長として，農研機構内の若手病害研究者や育種研究者のみならず，公設場所の研究者や普及担当者を巻き込んで精力的に研究を展開し，ムギ類赤かび病について，病原菌の生態や個体群構造，かび毒の蓄積等の知見に基づくかび毒汚染低減に関する技術開発に取り組まれました．この間のご業績に対し，2019年に「ムギ類赤かび病のかび毒汚染低減に関する研究」で日本植物病理学会賞が授与されました．また，2011年から1年半は内閣府食品安全委員会事務局次長として，原発事故を契機とする食品中の放射性物質の基準値の策定に携わり，食品安全行政の推進にも大きく貢献されました．さらに，農林水産技術会議事務局研究調整官として研究開発法人の統合と改革に関する業務に2013年から約3年間従事され，現在の農研機構の礎を構築し，九州沖縄農業研究センター企画部長，農研機構本部企画調整部長を歴任後，研究推進担当の理事を2年間務められました．

このように，中島氏は行政と研究において数々の重責を担われた経験から，「わが国の植物保護学の持続的な発展には核となる研究組織が必要である」との信念を持たれ，令和3年の農研機構植物防疫研究部門の新規設立に際しては，中心人物としてその設立に大きく貢献されました．

理事ご退任後は，エグゼクティブリサーチャーとして植物病害虫分野の研究成果の社会実装を加速するため，農研機構初のスタートアップとして本年1月に設立された「農研植物病院」の立ち上げに精力的に取り組まれておられました．今回のご逝去はまさにその最中での出来事であり，志半ばでの突然の旅立ちとなってしまったことは，我々はもちろんのこと，ご本人にとりまして極めて残念なことであったと推察いたします．

本学会においては，2010年から評議員として長きにわたり学会運営に携わるとともに，令和元年度の日本植物病理学会大会では，大会委員長として大会の運営にもご尽力されました．さらに，2020年の法人化後は理事として，学会運営に多大な貢献をいただきました．

ここに生前のご功績を称え，心からご冥福をお祈りいたします．　（日本植物病理学会　平塚和之）

【学会活動状況】

1．部会開催報告

（1）北海道部会開催報告

令和5年度日本植物病理学会北海道部会では，10月12日（木）に第229回談話会，13日（金）に一般講演が開催された．今年度は北海道クリスチャンセンターホール（札幌市）を会場とした4年ぶりの対面開催となった．参加者は73名であった．談話会では「北海道で発生する病害をめぐる話題」をテーマとして「サツマイモ基腐病」「ウリ科ホモプシス根腐病」「アズキ茎腐細菌病」「北海道産ニンニクのウイルス病」について4名の演者の方にご講演をいただき，お話の直後の質疑応答のほかにも総合討論として全体を通した視点からの活発な討論が行われた．一般講演では16題の講演があり，内訳は菌類病9題・細菌病2題・ウイルス病5題であった．特にトラブルもなく座長による質疑応答はスムースに行われた．ホールでの対面開催にあたって，今後は使用する機材（パソコンや液晶プロジェクターなど）の維持や更新が課題になってくると思われた．今年度は懇親会も北大生協中央食堂を会場として4年ぶりに開催され，活発な情報交換が行われるとともに大いに部会員相互の親睦が深められたように思われた．これも対面開催の大きな利点である．次年度は10月上旬に北海道大学を会場として開催される予定である．　（秋野聖之）

九州部会地域貢献賞を授与された菅 康弘氏

（2）九州部会開催報告

令和5年度日本植物病理学会九州部会は，11月29日，30日に，長崎県農協会館（長崎市）にて，正会員37名，学生正会員9名，非会員5名（合計51名）の参加により開催された．講演発表は，糸状菌病8題，細菌病4題，ウイルス病3題，放線菌1題，植物保護6題の合計22題であり，九州地域で深刻な問題となっているサツマイモ基腐病やタマネギベと病の防除対策，各種病原菌の生理生態について報告され，活発な議論と意見交換がなされた．また，本年度の日本植物病理学会九州部会地域貢献賞は，長崎県農林技術開発センターの菅 康弘氏「バレイショおよび果樹において問題となっている病害対策技術の開発および普及」に授与され，同氏による記念講演がなされた．学生優秀発表賞は鹿児島大学の藤田将矢氏「ジャガイモそうか病に対する牛由来ラクトフェリン（LFcinB）の抗菌作用機序」，宮崎大学の太田江美氏「UV-B treatment suppresses symptoms induced by cucumber mosaic virus but does not affect vectors' preferences on tomato plants」に授与された．幹事会，総会において，令和5年度役員および予算案等が承認された．令和6年度は佐賀県での開催が予定されている．

（稲田　稔）

【学会活動予定】

1．2024年度大会ならびに研究会・談話会開催予定

（1）日本植物病理学会大会

日時：2024年3月13～15日

場所：仙台国際センター

事務局：東北大学

（2）第17回 バイオコントロール研究会

日時：2024年3月16日

場所：東北大学川内北キャンパス

事務局：岐阜大学

（3）第15回 植物ウイルス病研究会

日時：2024年3月16日

場所：東北大学川内北キャンパス

事務局：秋田県立大学

（4）第33回 殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム

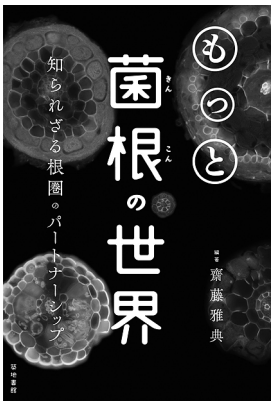
日時：2024年3月16日

場所：東北大学川内北キャンパス

事務局：JA全農 営農・技術センター農薬研究室

【書評】

「もっと菌根の世界　知られざる根圏のパートナーシップ」編著　齋藤雅典，2023年9月刊行，築地書館，2,700円＋税，カラー口絵8頁＋344頁




（表紙写真：
築地書館HPより）

本書は「菌根の世界―菌と植物のきってもきれない関係」の続編です．本書を読むまでは「菌根」について「植物との共生」，「アーバスキュラー菌根菌」，「分離・培養が困難な場合が多い」程度の断片的な知識しかありませんでした．本書は農作物を含む様々な植物種に共生するアーバスキュラー菌根菌，食用キノコの生産において重要な外生菌根菌，ツツジ科の植物が酸性土壌等の不良土壌に適応するのに大きな役割を担っているエリコイド菌根菌等について紹介されており「菌根」に関する教科書としてお勧めです．さらに本書は最新の「菌根」に関する研究が書かれているだけでなく，読者がその研究場面に立ち会っているかのような錯覚を起こさせるくらい執筆者達の研究上の喜怒哀楽が赤裸々に綴られています．私が本書を読み驚いたのは執筆者達の「菌根愛」と呼んでも過言ではない程の菌根に対する温かい想いです．樹木に共生し，キノコを形成するような外生菌根菌の中にはショウロ属のように宿主特異性が強いグループがあり，絶滅危惧樹木を宿主とする菌根菌は宿主と共に絶滅する恐れがあり，絶滅危惧「菌」種として国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストに登録されています．仕事柄，植物病原体を駆逐する最適解を日々模索して，結局微生物達に出し抜かれては悔しい思いを味わって

いる自分としては「絶滅して欲しい菌リスト」はありますが，絶滅を心配する心は持ち合わせていませんでした．本書に書かれている「植物と菌根菌の共生関係」を理解すると絶滅の恐れがある菌を研究することは絶滅が危ぶまれる希少植物種の生息する森林を守ることにつながると知りました．書中にいくつか【コラム】があるのですが，こちらは菌類の分類についての講義, エリコイド菌根の観察方法, 宮沢賢治と菌根について等幅広い内容が掲載されています．本書には菌根菌ではないがDSE（Dark Septate Endophyte）についても紹介されています．DSEとは森林土壌や森林に生息している植物根部に生息している菌類で培地上に暗色の無性胞子を形成し，菌糸に隔壁がある菌類の総称です．DSEはハクサイ黄化病の抑制効果については有名ですが，本書ではテンサイの高温耐性付与に関する話も紹介されていました．DSEも菌根菌もまだまだ農林業への利用に関して普及しているとは言い難いのですが，さらに菌根菌についての知見が集積し，応用研究が進展すれば農林業の生産現場が大きく変わると思います．本書を読み終えた後，私の中の小さな「菌根の世界」を少しでも広げるべく，本書の前作の「菌根の世界―菌と植物のきってもきれない関係」を注文しました．私が研究できることは限られているので是非多くの方々に「菌根の世界」に興味を抱いていただき，研究者人口が増えれば幸いです．

野口（辻本）雅子（農研機構植物防疫研究部門）

**【学会ニュース編集委員コーナー】**

本会ニュースは，身近な関連情報を気軽に交換することを趣旨として発行されております．会員の各種出版物のご紹介，書評，学会運営に対するご意見，会員の関連学会における受賞，プロジェクト研究の紹介などの情報をお寄せ下さい．下記宛先まで，よろしくお願い申し上げます．

投稿宛先：〒114-0015　東京都北区中里 2-28-10
日本植物防疫協会ビル内
学会ニュース編集委員会
**FAX**：03-5980-0282
または，下記学会ニュース編集委員へ：
門田育生，染谷信孝，大里修一，石橋和大

---

**編集後記**

学会ニュース第105号をお届けします．寒い日が続きますが，寒さの中にも少しずつ春の気配が感じられるようになってきました．

昨秋，本学会理事，中島 隆氏がご逝去されました．ここに謹んで心から哀悼の意を表するとともに，ご冥福をお祈りいたします．

学会活動は北海道部会および九州部会ともに対面開催が再開され，活発な議論や情報交換が行われました．会の開催や運営にご尽力いただいた皆様に，感謝申し上げます．2024年度大会ならびに各研究会の開催については，ご案内の通り対面方式で行われる予定です．多くの方々にご参加いただきますようお願い申し上げます．　（門田育生）